



文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

NEWSLETTER

EXTRA

2017.3

岡山大学 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

Index

第7回男女共同参画に関する管理職セミナー	1
シンポジウム等参加記	2
各種助成金利用者の声：女性教員支援助成金（他機関訪問型）、 女性教員支援助成金（マネジメント力向上支援型）、復職支援助成金	3
各種事業利用者の声：保育支援事業、研究支援員事業／編集後記	4

第7回男女共同参画に関する管理職セミナー ～ダイバーシティ・マネジメント～

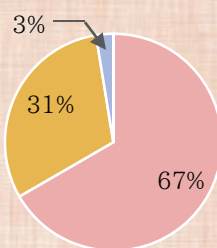
開催日	平成28年11月1日（火）13:00～14:00
場所	岡山大学創立五十周年記念館2階会議室
講師	稲葉カヨ 理事・副学長／京都大学
参加者	47名

本学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室は、平成28年11月1日（火）「男女共同参画に関する管理職セミナー」を創立五十周年記念館で開催しました。第7回となる今回は、京都大学の稲葉カヨ理事・副学長（男女共同参画・国際・広報担当）が「ダイバーシティ・マネジメント」と題して講演。本学の管理職員ら47人が参加しました。

稲葉理事・副学長は、まず、我が国の男女共同参画の取り組みが世界111位と大きく遅れていること、その理由として特に政治分野、経済分野における幹部女性比率の低さが顕著であること、家庭と仕事の両立が困難と感じる女性研究者が多いこと、という世界から見た日本の男女共同参画の現状を紹介。さらに、同大で、「女性研究者支援センター」を基点として、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援の三つを大きな柱として支援を行ってきたことを、数値を示して説明しました。

稲葉理事・副学長は最後に、「大学において男女共同参画が一層推進されるためには、同じ目的のために男女が共に助け合って物事を行う『協同（働）』の意識を持つことが重要である」とアドバイス。参加した管理職員は熱心に講演を聴講しました。

本セミナーは、管理職員の男女共同参画に関する知識の向上と意識啓発を目指しており、今後も継続して実施します。



[アンケート集計]

- とても有意義だった
- まあまあ有意義だった
- あまり有意義でなかった
- 全く有意義でなかった

[感想]

- ・データに基づくお話で良かったです。
- ・実務的なことがよくわかって良かったです。
- ・クリアに説明していただきました。
- ・共同と協同（働）の違いがわかり、納得できました。

参加記

Participation Report 2016

お茶の水女子大学 「タナーレクチャー—21世紀の女性の生き方—」

開催日 平成28年5月18日（火）13:00～15:00

場 所 お茶の水女子大学 徽音堂

ケンブリッジ大学ニューナムカレッジのキャロル・ブラック学長、元文部科学大臣の遠山敦子氏による講演がありました。女性が社会に出て活躍することを促進するために、女性を取り巻く環境・意識を変えることは重要であり、何よりも女性自身が意識を変えることが必要であると述べられました。自信と情熱にあふれた講演で、力強いエールを感じました。

国立女性教育会館 平成28年度男女共同参画推進フォーラム

開催日 平成28年8月26日（金）～平成28年8月28日（日）

場 所 国立女性教育会館

初日は、男女共同参画均等法の成立に尽力された元労働省婦人局長の赤松良子氏による講演の後、お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所の事例紹介がありました。その後、クオータ制を推進する会のワークショップに出席しました。2日目は、「ダイバーシティの本質～経済活性化とワークライフバランス（WLB）を共に実現する鍵～」に参加し、3日目には期間中常設されているパネル展示を見学しました。

四国5大学連携女性研究者活動推進シンポジウム2016 （第8回中国四国男女共同参画シンポジウム共催）

開催日 平成28年11月18日（金）13:00～17:00

場 所 徳島大学 蔵本キャンパス

徳島県知事の飯泉嘉門氏、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策推進室長の唐沢裕之氏、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授の中西友子氏による講演の後、「女性研究者の活躍推進とキャリア形成」というタイトルでパネルディスカッションが行われ、本学からは男女共同参画室員で大学院医歯薬学総合研究科（歯）の池亀美華准教授が講演を行いました。その後、女性研究者によるポスターセッションがあり、本学からは大学院環境生命科学研究科（農）の門田有希助教が研究紹介を行いました。最後に徳島大学理事・副学長である阿部幸輔氏より閉会の挨拶があり、盛会のうちに閉会となりました。講演・発表はもちろん、自治体やメディアの参加により非常に熱を感じられる会でした。

平成28年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業 シンポジウム 「博士人材の社会の多様な場での活躍促進」

開催日 平成28年12月1日（木）13:30～17:30

場 所 ガーデンシティ竹橋

初めに正本文部科学審議官より開会の挨拶があり、大きく変動する国際情勢の中で、活躍する人材育成が課題であり、博士人材の育成は科学技術だけでなく、多方面で重要であることが述べられました。続いて、文部科学省人材政策課塩崎課長、トヨタ自動車株式会社先進技術開発カンパニー研究部長の射場英紀氏による講演、名古屋大学、東京農工大学、信州大学、立命館大学の博士人材育成とキャリア支援について、取り組み状況の事例紹介及びパネルディスカッションがありました。アカデミア以外に活躍の場があることを知らせること、博士の学位取得者の賃金を上げるべき、個々の大学での有効な取り組みを全国に広げるべき、経済的支援が必要、などの発言がありました。

各種助成金利用者の声

研究スキルの充実、共同研究シーズの開拓につながる学外活動を奨励することを目的として、若手女性研究者自らが企画・遂行する他機関を訪問しての情報交換・情報収集を行う際の旅費を助成しております。本年度は7名の方が採択されました。

女性教員支援助成金 他機関訪問型



利用者 高橋 明子 助教 / 大学院自然科学研究科 (工)

私は、太陽光などの自然エネルギーや水素を利用した新しい分散型電源システムのエネルギーマネジメントや、安定な電力供給システム構築のための制御技術を研究しています。本助成を受けて、産総研福島再生可能エネルギー研究所を訪問しました。訪問先では、専門的な議論や国内有数の実験装置の見学ができました。また、太陽光発電システム実証エリアを活用して、それまで小規模実験で検討してきた技術を実用化するための課題を見つけることができました。今後も、今回の訪問で進展した研究に精力的に取り組んでいきたいと思っています。

女性教員支援助成金 マネジメント力向上支援型

グローバルなマネジメント力やリーダーシップ能力を備えた若手女性研究者の育成を目的として、若手女性研究者自らが、主導あるいは共同で企画・実施する国際シンポジウム、ワークショップ等の開催に関する費用を助成しております。本年度は3件採択されました。

利用者 三宅 幹子 准教授 / 大学院教育学研究科

女性教員支援助成金（マネジメント力向上支援型）によるご支援を頂き、日本教育心理学会第58回総会にて『子どもによる子どものためのネット・スマホ問題対策—OKAYAMAスマホサミットのチャレンジと波及—』と題するシンポジウムを開催しました。インターネットやスマートフォン使用の低年齢化に伴い、ネットいじめ、アディクション、犯罪被害などトラブルも心配されます。シンポジウムでは、子どもと大人が上手に手を結び、ネットとうまく付き合う力を育てる方法について、スマホサミットの取り組みを軸に議論を深めることができました。



研究者の継続的なキャリア形成支援の構築を図ることを目的として、出産・育児・介護等のライフイベントによる研究中断から復帰する研究者を対象に、リスタートのための研究費を助成しています。これまでに延べ13名の方が採択されました。

復職支援助成金



利用者 小澤 春香 スーパーテクニシャン / 惑星物質研究所

前職にて育児休業を経た後、地球物質科学研究センター（現惑星物質研究所）に着任し、地球内部に相当する高圧力下における高温発生技術の開発を行ってきました。研究は順調に進みましたが、研究費がない為に中断を余儀なくされました。そこで、復職支援助成金に申請し、採択されました。結果、研究を継続する事ができ、現在国際誌に投稿中です。特に20代、30代の研究者は、任期付身分での採用が多い上に出産や育児の時期と重なる為、落ち着いた研究環境を得にくく、まとまった成果を上げるのが難しい状況にあります。そのような研究者を支援する事業は大変意義のあることだと思います。

各種事業利用者の声

保育支援事業

家庭と仕事の両立を支援することを目的とし、生後43日から小学校6年生までの児童を養育する研究者を対象に、時間外保育等にかかるベビーシッター利用料金の一部を補助しています。これまでに延べ6名の方にご利用いただいております。

利用者 佐藤 あやの 准教授 / 大学院自然科学研究科（工）

1歳4ヶ月になる息子がいます。昨年4月（生後5ヶ月）から、平日は保育園に通わせています。子供が病気のときは「ますかつと病児保育ルーム」を利用しています。けれども、生後6ヶ月に至るまでの期間や、「ますかつと病児保育ルーム」に預けられないときは、ベビーシッターさんをお願いします。そのような状況では、緊急依頼費も含めて相応の出費となりますので、この保育支援制度の経済的な支援は、とてもありがたく心強いです。



家庭と仕事の両立を支援することを目的とし、出産・育児・介護等により研究時間の確保が困難になった研究者を対象に、研究支援員の雇用を支援しています。本年度は16名の方が採択されました。

研究支援員事業

利用者 相澤 清香 助教 / 大学院自然科学研究科（理）

私には2歳の娘がおり、仕事と育児に追われ慌ただしく過ごしております。平日は17時までしか仕事ができず、研究を思うように行えないことがストレスでした。今回、研究支援員に実験補助をして頂いたことで、これまでより効率良く実験が進み、基礎となるデータを得ることができました。現在私はテニユアトラック教員で、審査への不安を抱えていましたが、今回研究が進んだことで精神的に落ち着き、子供に対して目を向けるゆとりもできました。この6ヶ月間は仕事と育児の両方に対して支援を受けたと感じています。今後もこういった支援が広がると非常に心強いと感じました。



編集後記

男女共同参画室の女性研究者支援事業として、現在、研究支援員、保育支援、復職支援、スキルアップ向上支援の各制度が運用されています。この支援事業は、それぞれの制度によって、ライフイベント、介護などによる業務への支障をできるだけ軽減するためだけでなく、研究者としてのスキル向上にも寄与しようとするものです。利用者は年々増加しており、今年度助成金交付を受けた方は、制度すべての合計で延べ36人になりました。今回掲載されている本事業利用者のコメントからも読み取れますが、これらの支援を継続するだけでなく更に充実させることが、ダイバーシティ文化の醸成に必須と確信しています。継続して運用していくためには、制度の見直し等不断の努力と大学構成員の更なる理解と協力が必要です。皆様には更なるご支援をいただきますようお願いいたします。

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530
岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7011 FAX: 086-251-7033
Email: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
<http://www.okayama-u-diversity.jp/>

